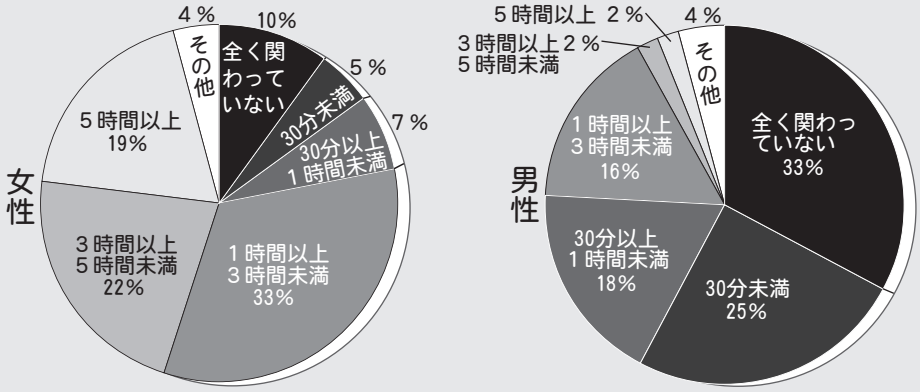
調査対象	24年10月現在、市内在住の18歳以上75歳未満の男女各1,000人、計2,000人 ※年齢、性別を考慮し、住民基本台帳から無作為に抽出。
回収結果	有効回収数1,056（有効回収率52.8％）
その他	詳しくは「調査結果報告書」をご覧ください。市民協働課または市ホームページで閲覧できます。

問合先　市民協働課市民協働担当（☎65・2178）

③平日の家事時間について

平日の家事時間は、女性で「１時間以上３時間未満」、男性で「全く関わっていない」が最も多く、女性の家事時間は男性より長くなっています。

■平日に家事や育児・介護などに携わる平均的な時間



平日に家事や育児・介護などに携わる平均的な時間はどのくらいか聞いたところ、女性で「１時間以上３時間未満」、男性で「全く関わっていない」の割合がそれぞれ最も高くなっており、差がみられます。全般的に女性の家事や育児・介護などに携わる時間は男性よりも長くなっており、女性の負担が大きくなっていることがうかがえます。

男女共同参画を実現するための役割（上位３位）

■市民の役割
①性別に関わらず、家事や育児・介護などに積極的に関わる（34％）
②分からない（22％）
③固定的な性別に基づく習慣、しきたりなどを見直す（18％）

■企業の役割
①育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる（49％）
②子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を進める（36％）
③事業所内における保育施設の設置など、子育て支援を充実する（30％）

■行政の役割
①子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る（48％）
②男性の家事・育児・介護などへの参加を進めるための講座や啓発を充実する（24％）
③学校において男女平等教育を浸透させる（23％）

男女共同参画社会を実現するため、市民、企業、行政がそれぞれどのようなことに力を入れていくべきだと思うか聞いたところ、市民の役割としては、「性別に関わらず、家事や育児・介護などに積極的に関わる」の割合が最も高く、男性の家庭生活への参画促進などが求められています。

企業の役割では「育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる」「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を進める」の割合が高く、職場の意識改革や女性の就労促進などが求められています。

行政の役割では、「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」の割合が最も高くなっており、仕事と家庭生活の両立を支援するための環境整備などが求められています。

市民には積極的な家事や育児・介護への参加が、企業には育児休業等を取得しやすい職場環境づくりが、行政には子育て支援や介護などの福祉サービスの充実が求められています。

④男女共同参画社会を実現するためのそれぞれの役割

「男女共同参画に関する市民意識調査」の結果がまとまりました

24年10月に、市民2,000人を対象に「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施し、調査結果がまとまりましたので概要をお知らせします。

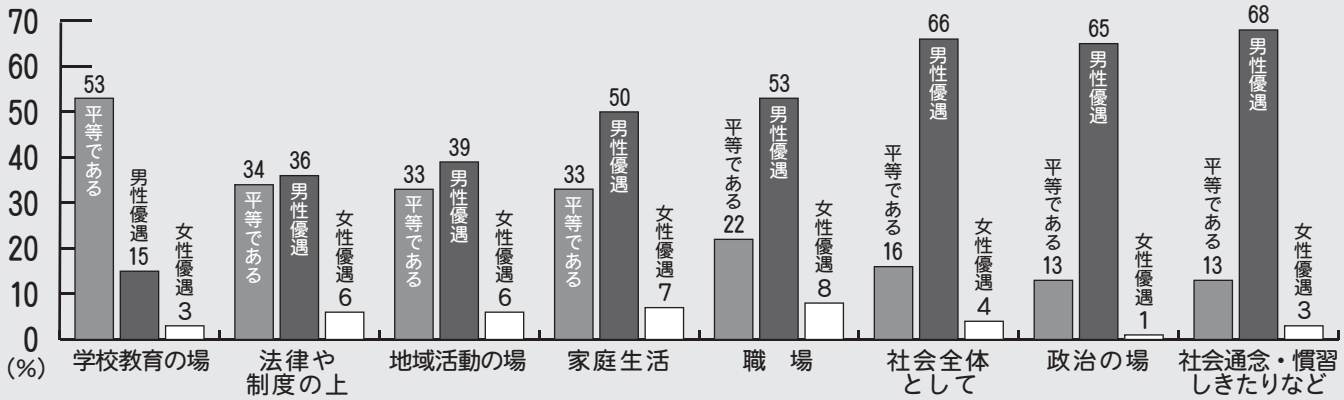
①男女の地位に関する意識について

「学校教育の場」は男女が平等であると感じられていますが、「家庭生活」や「職場」などその他の分野では男性が優遇されていると感じられています。

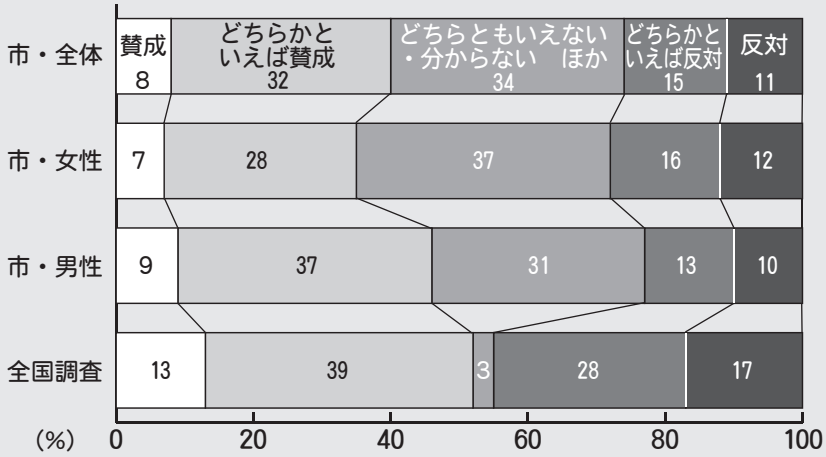
「家庭生活」や「職場」など８つの分野において、男女の地位が平等になっていると思うか聞いたところ、「学校教育の場」以外の７つの分野で、『男性優遇』の割合が高くなっています。

※『男性優遇』は、調査項目の「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたものを表し、『女性優遇』とは、調査項目の「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせたものを表します。

■各分野における男女の平等感



■「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えをどう思うか



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という、固定的な性別役割分担に対する考え方については、『賛成派』が『反対派』を上回っています。男女別では、男性よりも女性で、『反対派』の割合が高くなっています。また、全国調査と比較すると、西尾市では『反対派』の割合が低く、「どちらともいえない、分からない」が高くなっています。

※『賛成派』は、調査項目の「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせたものを表し、『反対派』は、調査項目の「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせたものを表します。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成する割合が、反対する割合よりも高くなっています。

②固定的な性別役割分担意識について